

東地区地域計画

東地区の課題	東地区の目指す姿	具体的計画の例
<p><自治会関係></p> <p>これまで、自治会の存在は住民によく知られていたが、(旧)住民協議会のことは、その名称も役割もあまり周知されていなかった。</p> <p>また、地域内を見渡すと、掲示板が古く掲示物が見えづらかったり街灯が暗かったりする箇所がある。</p> <p>草が茂っていたりごみが落ちていたりする所もある。</p> <p>一方、外国籍の人が増え言葉が通じないことから、自治会の連絡やゴミ出しのルールが理解してもらえず、自治会運営がスムーズにできてない場合がある。</p>	<p>1. 環境整備に取り組むまち</p> <p>①住民自治協議会の存在が住民に周知されている。</p> <p>②地域内の夜道が明るく安心で、掲示板が整備されていて見やすい。</p> <p>③草やごみがなくすっきりしている。</p> <p>④外国籍の人とも簡単な意思疎通をする手段がある。</p>	<p>◎PRチラシ等の配布</p> <p>◎防犯灯・掲示板整備助成</p> <p>◎町内美化活動助成</p> <p>◎ごみ拾い活動</p> <p>◎外国語翻訳機貸与事業</p>
<p><防災・防犯関係></p> <p>南海トラフ地震の発生率が高まっており、家具や家屋等の転倒・倒壊の下敷きになる恐れや、伊勢湾からの津波被害に遭う恐れがある。</p> <p>また、台風・大雨時には愛宕川や名古屋川の水位の上昇が早く氾濫の危険性もある。</p> <p>万が一これらの災害により、避難生活が始まった場合、簡易トイレなど防災用品に慣れずストレスを抱えることが考えられる。</p> <p>一方、普段の家庭生活でも、消火器が使えず消火に不安を抱えている人がいる。</p> <p>さらに、詐欺や空き巣等日常生活を脅かす手口は年々巧妙化しており、高齢者でなくとも被害に遭う心配がある。</p>	<p>2. 防災・防犯に取り組むまち</p> <p>①住民ひとりひとりが、避難ルートや避難所を知っていて行動できる。</p> <p>②住民が、災害時に自分の身を守るための備えについて知っている。</p> <p>③住民が、災害時に自分以外の人を救助する方法を知っている。</p> <p>④住民が、避難生活時の防災用品や日常生活での消火器の使い方を知っている。</p> <p>⑤住民が、詐欺・空き巣等に遭わないような手立てを知っていて被害を回避できる。</p>	<p>◎避難訓練</p> <p>◎防災勉強会</p> <p>◎防災用品・消火器等の使い方訓練</p> <p>◎詐欺・空き巣等への対策勉強会</p>

東地区の課題	東地区の目指す姿	具体的計画の例
<p><福祉関係></p> <p>地域内では、高齢者のみの世帯が増え、買い物や病院行き交通手段がなかったり、足腰が悪く行事に参加できない人がいる。何より安否が心配される。</p> <p>一方、14歳以下の人口が65歳以上の人口の3分の1以下という自治会が増えてきており若い世代が非常に少なくなっている。</p> <p>次代を担う若い世代を大切に守り育てていくのは、地域の急務である。</p>	<p>3. 誰もが安心して暮らせるまち</p> <p>①長寿を地域で祝う。 ②認知症になっても自分の住んでいる地域で安心して暮らせる。 ③隣近所で日頃から声をかけあい、安否を気遣いあう。 ④地域全体で子ども達の安全を見守る。 ⑤地域に子ども達の居場所がある。 ⑥地域でささやかながらも子育てを支援し、子ども達の成長を温かく見守る。</p>	<p>◎敬老会</p> <p>◎高齢者安心見守り隊 ◎子ども見守り隊</p> <p>◎ふれあい広場・ほほえみ広場</p> <p>◎新入学児童への記念品の贈呈</p>
<p><まちづくり関係></p> <p>年々地域行事への参加者が減り、交流が進まず地域が寂しくなっている。</p> <p>また、若い世代の参加も少なく、地域行事の存続や地域の絆、将来が懸念される。</p>	<p>4. 地域の人々と交流できるまち</p> <p>①季節に応じて地域の人々が楽しく交流できる。 ②外国籍の子ども達も日本での暮らしを楽しめる。</p>	<p>◎夏(秋)まつり</p> <p>◎ポッチャ大会</p> <p>◎クリスマス会</p>
<p><公民館関係></p> <p>公民館利用者は年々減少し、しかも高齢化している。</p> <p>多様な学習機能を備えたICT機器を使いこなして一人で場所を選ばず学習できる若い世代がいる一方で、日常生活へ浸透してきた便利なICT機器を使いこなせずにいる中高年層もいる。</p> <p>また、外国人、LGBT、同和、障がいなど現代の世の中は多様な人権について学ねばならなくなっている。</p> <p>時代の流れに沿って求められる価値、時代は変わっても変わらない価値の両方を追求しながら、人と集い学びそして結びあうことで感じられる楽しさや喜びがあることを、若い世代に伝えていく必要がある。</p>	<p>5. 生涯を通じて学べるまち</p> <p>①実生活に即したことが学べる。 ②講座や講演、展示会等により教養や文化が深められる。 ③手先や指先を使った作品作りをしたりその作品を飾ったりして、生活に彩りを添えたり他の人と交流したりできる。 ④健康や福祉に関する知識が得られ、自ら健康や生活に気を付けて生き生きと暮らせる。 ⑤体育やレクリエーション等が体験できて楽しめる。 ⑥多様な人権について学ぶ機会がある。</p>	<p>◎パソコン教室</p> <p>◎文化祭</p> <p>◎新春茶話会・ゲストショー</p> <p>◎手芸教室</p> <p>◎絵手紙教室</p> <p>◎創作教室</p> <p>◎おひさまくらぶ</p> <p>◎健康講座</p> <p>◎福祉バスツアー</p> <p>◎親子太極拳教室</p> <p>◎人権落語</p>